NIE実践報告

1．タイトル：**☆新聞に投稿してみよう**

2．学校名

熊本県立熊本工業高等学校　全日制

3．実践者名（代表者名）

中田　輝保

4．学年

第3学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

国語表現Ⅱ・HR　41人

6．単元（本時の学習課題）名

表現の実践(1)―意見・主張―

7．目標(狙い)

自分の意見や心情を的確に表現できるようにする。他者の意見や心情を知ることで、双方向のコミュニケーション能力(主張するだけでなく「聞き手」として適切な意見を述べることも含めて)を高める。

8．評価の視点

自己認識を深め、自分の意見や心情を適切な言葉遣いで表現できたか。相互批評を建設的な態度で行えたか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数

（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

表現の実践(1)―意見・主張―5W1Hに注意して書く(4時間)

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

○　本単元に入る前に、1分間スピーチや教材文などをとおして「聞き手」になることについて学んだ。また他者に意見を発信するのに必要である適切な自己認識を深めるために、情報収集(新聞スクラップなど)に取り組ませた。

1　文章の基本について学ぶ(2時間：NIE講習会を含む)

2　意見文を書く(1時間)→読者欄に投稿する［授業担当者］

3　相互批評・相互評価の実施(1時間)

（留意点）

- **題材が偏らないように、広い視野で物事をとらえさせる。毎朝HRに当日の朝刊を置いて、自由に読ませたり、切り抜きをさせたりした。**
- **「書く」ことの抵抗感をなくすために、本単元に入る前に、「話す」ことを重視した授業を展開した。**
- **生徒の文章は、できる限り新聞に掲載された当日に紹介し、新聞の特性を最大限活用するようにした。**

11．児童・生徒の反応、感想・意見

自分の意見が新聞に掲載されるという経験そのものが、生徒たちには喜びであり、社会との接点を感じた瞬間であったと思う。就職試験や大学入試を目前に控えた時期でもあったが、新聞のおもしろさを知り、多種多様な意見を発信したり、受容できるようになったと思う。

12．成果と課題

HRに新聞を毎朝自由に読ませるということにより、例年とは視点を変えた国語表現の授業が展開できた。社会科を中心に、教科間で連携がさらに強化されたのも良かった。新聞に掲載される生徒数が増えるのに比例するかのように、論理的に「書く」「話す」能力が高まったと感じた。対象を徐々に広げ、最終的には3年生全学級で取り組んだ。課題としては、3年次での取り組みであったが、入学時から更に計画的かつ継続的に取り組ませ、より効果的にしていけるかが挙げられる。